



Be an ACE!

大志・貢献・活力

県立直江津中等教育学校
H28 学校だより No. 17

平成 28 年 7 月 22 日 (金) 発行

第1学期夏季休業前全体講

校長 加藤 徹男

4月の始業式から3ヶ月半が過ぎました。4年生は11月の海外研修の関係で来週も午前中だけ授業がありますが、他の学年は夏休み前の授業が今日で終わりになります。夏休み中も、夏季補習や学習合宿、大学訪問など、いろいろな行事がありますので、忙しいと感じるかもしれませんが、それでも通常と比べるといくらか時間に余裕ができるはずで、この機会に皆さんが4月に掲げた目標が、その後どうなったのか、計画どおり頑張ることができたのか、振り返ってほしいと思います。

さて、私が読んだ本について、話したいと思います。心理学関係の本を数多く著している榎本博明さんの本で、新潮新書の『ほめると子どもはダメになる』というタイトルの本です。この本の中で、著者の榎本さんは「失敗を怖れてチャレンジできない若者や内向きの若者。ゆるく生きるのに馴染みすぎて頑張れない若者。教師や上司の注意や叱責に対してすぐに反発する若者。ちょっとしたことでひどく落ち込む若者。傷つきやすく、鍛えることが難しい若者。そのような若者が明らかに増加している。」と書いています。

この本によれば、親が子どもを「叱らずに育てる」「ほめて育てる」ことが、日本でブームになったのは今から二十数年前だそうです。この「ほめて育てる」という考え方は、「叱り方を間違えると子どもは心の傷を受ける」「叱ると自信のない子になってしまう」「だから叱らない子育てが大切」という理屈で、欧米で話題になっていた考え方が日本に持ち込まれたとのことです。では、二十数年が過ぎて、叱られずに育った日本の子どもは逞しくなったのか？自信を持った若者が増えたのか？いろいろな意識調査などから得られる結果は逆だといわれています。子どもの時に厳しく叱られたことがないから、学校や会社で注意されるとひどく落ち込む。あるいは注意されたことで全人格を否定されたように勘違いして注意した相手に逆ギレするなど、叱られた経験が少ないから叱られたときに上手く対応できない若者が増えてしまったということです。ある調査データでは、「年長者からアドバイスされて、うとうしいと思うことがある」という人が20代では3割近くになり、「『上から目線』でものを言われてイラッと来ることがある」「人からバカにされたくないという思いが強い」という項目に20代の半数以上の人々が当てはまると答えているとのことです。これでは、就職して会社に勤めても上司や先輩社員のアドバイスが上手く伝わらず大変だろうと思います。

また、子育ての経験がある親に、ほめて育てることの影響を聞いたところ、「自信がつく／良いことをますます行うようになる／前向きになる／期待に応えようと頑張る」などの効果が聞かれた一方で、「調子に乗る／自己チューになる／善悪の判断ができなくなる／打たれ弱くなる／ほめられないと機嫌を悪くする／失敗を隠そうとする／嘘をつくようになる／注意を素直に受け入れられない」など、多くの弊害が指摘されたとのことです。さらに、どんなときに、ほめるかが重要で、子どもが頑張った結果をほめられたのであれば、頑張ったことが報われたという感慨があって次回も頑張ろうと思うようになるが、たいして頑張っていないのにほめられると逆に努力する気持ちが薄れてしまう、という指摘もあります。

そもそも「ほめると子どもはダメになる」というタイトル自体、生徒の皆さんには、受け入れがたい感じがするかもしれません。そのように育てたのは、皆さんの親や教員であって、皆さんの意志とは無関係だからです。ただ、この場で、私がこの話をするのは、皆さん全員に当てはまるわけではないけれども、そういう特徴がある世代だということを知っておくこと、そして、これからでも自分に不足している部分や弱い部分を意識し鍛えておくことで、将来就職したり、異なる年代の人たちと一っしょに仕事をするときに役立つのではないかと思うからです。

ところで、この本は、親が自分の価値観を子どもにぶつけることで子どもに立ちほだかる「壁」になることを求めています。ほめて育てられた若者にこれから何をすべきかについては多くを書いていません。ただ、これから読み上げる部分がメッセージになっているように思います。

「自己肯定感とは周囲が与えるものではない。壁にぶつかり、頑張っても思うような成果が出ないことに悩み苦しむ、それでも頑張り抜いて自分に力がつき、成長し、壁を乗り越えることによって、あるいは乗り越えることができなくても、力を尽きたという充実感を通して、徐々に培われていくものなのではないだろうか。」

この本の記述だけでは、少し抽象的な表現でわかりにくいかもしれませんが、目標を達成するために、あるいは何かの課題を解決するために、自ら努力し挑戦することが大切だということです。挑戦する内容は、勉強であったり、部活動に関することや趣味に関することなど、何でもよいと思います。最初は小さな挑戦で構いませんが、自ら努力して乗り越えようと挑戦することをいろいろな場面で繰り返し経験していくことで自己肯定感も高まるし、逞しくなっていくんだということです。夏休みが始まります。例えば、何巻もある長編小説を夏休み中に読上げるという目標でもよいです。水泳とか陸上競技で目標タイムを更新するという目標でもよいです。身近なもの、簡単なものから始めて、これまで乗り越えられなかった壁を乗り越えるために、具体的な何かを全力で取り組んでみてほしいと思います。

話は変わりますが、6学年にとっては、本校卒業後の次のステップに向けて全力で準備を進める大切な夏休みになります。

この夏休みは、時間が十分にあるようで、実際に何かに取り組んでみると時間が足りないことに気づくものです。特に苦手科目で苦勞している人は、難易度の高い入試用の問題集で時間を消費するよりも、たとえ遠回りのように思えても、基礎事項を中心とした問題集で繰り返し復習する方がはるかに効果的な場合が多いことも伝えておきたいと思います。しっかり頑張ってください。

では、夏休みが終わって8月26日に、全員が元気に登校できるよう交通事故などに気をつけて、充実した夏休みを過ごしてください。

夏季休業中の心得 ～自主自律の精神で充実した夏を過ごそう！～

【夏季休業中に十分配慮してもらいたいこと】

◎安全・安心を心掛けましょう。

- ・交通事故 ・水難事故 ・熱中症対策 ・落雷事故 ・不審者 ・触法行為

※特に不審者や怪しい者には近寄らない。危険を感じた場合は、即110番通報をしましょう！

また、遊興施設への立ち入りについては、既に配付してある「心得」に従い、無用なトラブルを避けるようにしましょう。

※心の悩みを抱えている場合は、一人で悩まず学校や相談機関にすぐに電話しましょう。

- ・上越少年サポートセンター (526-4970) ・24時間いじめ相談ダイヤル (0570-078310)

※友達の家を外泊したり夜遅くまで遊んだりすることは、問題行動の始まりとなります。

※ネット社会に潜む危険について認識し、保護者の監督の下で利用させてください。

現在、上越地域においてもネットいじめやネット犯罪に巻き込まれている生徒がいます。

ネットにより他校生徒とすぐにつながるようになり、トラブルに巻き込まれる事例が相次いでいますので、ご注意ください。

◎直中等生としての自覚ある行動をしましょう。

- ・補習や部活動の無断欠席は許されません。欠席の場合は必ず学校に連絡をください。
- ・心を豊かにするための読書、直中等生の本分である勉強を大いにしましょう！
- ・家庭の一員として、家のお手伝いをしたり家庭内で大きな声で挨拶を交わしたりしましょう。

◎夏季休業中は、生徒は家庭で過ごす時間が多くなります。お子様の健全な成長を支援できるようご家庭で十分見守ってください。

夏季休業の課題テスト・3年修了テストの日程

夏季休業中の課題の定着状況を確認する課題テストを以下の日程で実施します。学力の定着には、復習が重要です。分からないところは、学校の補習等を利用して必ず教師に聞いて、理解するようにしてください。なお、3年生は修了テスト（高校入試レベルの問題）となり、テスト範囲が広がりますので、計画的な学習が必要です。

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
1限	国語	英語	国語	国語	国語	国語
2限	数学	社会	数学	英語	英語	英語
3限	英語	理科	社会	数学	数学	数学
4限	社会	国語	理科	世界史・現社	日本史・地理	日本史・地理
5限	理科	数学	英語	生物基礎・物理基礎	化学	化学/世界史
6限	授業、学活	授業、学活	学活	授業	世界史・物理・生物	授業
7限				授業	LHR	授業

[テスト時間] ・1, 2年生は30分間 ・3年生は45分間(英は50分)

・4～6年生は50分間(5年数学75分) ※必ず各学年のたよりでご確認ください。

今後の予定 ※各学年のたよりをご確認ください。



- 7月23日(土) 6年生全統マーク模試
- 25日(月) 夏季休業(～8/25) 4年生授業(～29日)
夏季補習(～29日) 前期三者面談(～29日) 前期県総体(～26日)
- 27日(水) 5年大学訪問(～28日) 6年学習合宿(～30日)
- 28日(木) 直江津祇園祭「民踊流し」参加
- 29日(金) 5年夏季補習